

『歴史言語学』

創刊のお知らせと原稿の募集

日本歴史言語学会
会員各位

会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年12月に大阪大学にて開催された日本歴史言語学会第一回大会は、設立直後にもかかわらず誠に盛会でありました。これも一重に会員諸兄のご協力の賜物であります。今後ともわが国の歴史言語学の進展と日本歴史言語学会の充実にお力添えください。

さて、その後検討させていただきまして、本学会の学会誌は『歴史言語学』(Historical Linguistics in Japan)と題することになりました。喜ばしいことに、その創刊号がいよいよ本年初冬に刊行される予定です。

第一回大会で実施したアンケートによりますと、学会誌の公開方法として、冊子を求める声と、今日風のe-ジャーナルを求める声がほぼ半々でありました。両方の要望にお応えすべく、『歴史言語学』は従来の慣例どおりに冊子として刊行するほか、掲載内容を学会ホームページ上でも公開する方針で準備を進めております。

つきましては、『歴史言語学』創刊号に掲載する原稿を募集いたします。執筆・応募要項を兼ねる「学会誌規定」が学会ホームページ(<http://www.jp-histling.com>)に掲載されていますので、執筆の際にはよくご確認ください。

なお、同規定には、投稿の〆切が6月末日と記載されていますが、調整に手間取り、お知らせが遅くなりましたので、創刊号に限り投稿の〆切を7月末日とさせていただきます。どうぞふるってご応募ください。

一点付言しますと、会費を低額に抑えたままで冊子を刊行するにはかなりの工夫が必要であります。ない知恵を絞った結果、『歴史言語学』誌を某出版社から市販本として刊行するという方法がみつかりました。同社の意向から、刊行後1年間はウェブ公開に印刷の制限が加えられる見込みです。価格は可能な限り低く抑えられるはずですので、『歴史言語学』誌が世に出た暁には、低額の会費を維持するためにも、是非積極的に買い求めいただきますよう、また所属機関やお近くの図書館等に購読をお勧めいただきますよう、予めお願い申し上げます。

上、何卒よろしくお取りはからいください。

2012年3月29日

日本歴史言語学会会長	後藤敏文
編集委員長	板橋義三
事務局長	神山孝夫